
エキセントリック新婚生活

B J

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

エキセントリックな新婚生活

【Nコード】

N2565E

【作者名】

B J

【あらすじ】

エキセントリックなお見合いをし、エキセントリックなデートを積み重ねてきた二人がついにゴールインし相変わらずエキセントリックな新婚生活を送っていた・・・

あの衝撃のお見合いから交際を始めることとなった二人

そしてあの魑魅魍魎な衝撃的デートをたび重ねてきた二人

かくして友晴と美佐子はこのたびめでたくゴールインしたのであった
包み包まれるような愛に満たされた二人の結婚生活は3ヶ月を過ぎ
ようとしていた・

………《とある月曜日の朝》………

「おはよう友晴さん！朝食の用意が出来ましたわよ！」

タンスの上から腹ばいになった新妻の美佐子が微笑みながらウイリアムテルの装いで友晴の脳天に置かれたリングめがけ勢いよく数本の矢を放ちながら優しく語りかけてきた

「・・・おお・・・ほわあああ・・・おはよう美佐子・・・ああ・・・」

友晴はボサボサ頭で寝ぼけまなこの目を擦らせ数本の矢が突き刺さったリングを手にする気怠そうにそれを食べ出しムツクリとベッドから起き上がった

友晴はベッドの上で直立するとかたつるそうに跳び跳ね始めた

1回、2回、3回、徐々に跳躍の高さが増してゆく

友晴はMAXの高さの位置の空中で全回転、後方回転、半ひねり、きりもみからの3回転半ひねり、屈伸の前方回転のモーニング・アプローチで美佐子に胸いつぱいの愛を表現する

“ボヨオオオ〜ンツ！ボヨオオオ〜ンツ！ボヨオオオ〜ンツ！ボヨオオオ〜ンツ！”

友晴のベッドはトランポリンと化するのであった

「美佐子！僕の枕の下から二丁のワルサーP38を取って僕に投げてくれ！」

「ハイ！」

美佐子は友晴から言われたとおり枕の下から二丁のワルサーP38を取り出すと絶え間なく忙しく飛び舞い跳ね上がりきりもまれる友晴に横っ飛びでダンスの角に額をぶつけ割れた額から血飛沫を吹き上げながら投げ渡した

「サンキュー美佐子！カミサハムニダツ！」

「ノー・プロブレム友晴！マシツソヨオツ！」

友晴は飛び舞い跳ね上がりきりもまれながら投げ渡されたその二丁の拳銃を受け取ると飛び舞い跳ね上がりきりもまれながら部屋中央八方ランダムに発砲したのであった

いつもの気合いの入ったかけ声とともに友晴はいつもの決め技ムーンサルトでフィニッシュを決め颯爽と両腕を横に水平に広げ床に着地した

「10点！10点！10点！10点！」と美佐子が両手の平を口に添え10点コールを連呼する

「ふう〜・・・さ、飯でも食おうか、今日の朝食は何だい美佐子？」

「私です」

美佐子は自らを亀甲縛りでM字開脚のままきつく堅く縛り上げ乳首にマヨネーズ、まんこにセロリをぶっ刺しベロと肉ビラを高速でピラつかせながら友晴に答えた

「ほう・・・」

“カシャッ！カシャッ！カシャカシャカシャッ！”

友晴はガウンのポケットからキューバ葉巻を取りだしそれに火をつけ思慮深げにげに吸い込むと感慨深げに両鼻の穴から煙をふかし出しおもむろに携帯のカメラで被写体の美佐子をバチバチ撮り出すのであった

「ごちそうさま・・・美味しかったよ美佐子」

そう言うと友晴は美佐子の肉にきつく食い込んだ縄を頑丈な歯で食い千切り優しく全身にサロンパスを貼ってやるのだった

「・・・この匂い・・・たまらない・・・なんだか僕、ワルツを踊り

たくなつたよ・・・さ、踊ろう美佐子」

軽快なワルツの音楽にのつて二人は艶やかなステップを踏み出した
美佐子は友晴から目と口だけを残され、それ以外の全身をぎっしりとサロンパスを貼られまくっているのまるでミイラそのものであった

「そお～らビックリしたつぺよお～・・・ふと家ん中さ見たらさ、旦那さんがよお～ミイラと踊ってんだものよお～・・・」

(注) 豊島 もこ道(64) 空き巣のプロフェッショナル(談)

「ツンタッター、ツンタッター、ツンタッター」

友晴は踊りながら歯を磨く

「ツンタッター、ツンタッター、ツンタッター」

友晴は踊りながら服を着る

「ツンタッター、ツンタッター、ツンタッター」

美佐子は踊りながら友晴のネクタイの歪みを直してやる

「ツンタッター、ツンタッター、ツンタッター」

二人は英国貴族のような気品に満ち溢れたステップと誇らしげなターンで華麗に舞い踊りながら玄関へと徐々に進んで行くのであった

「もう玄関に着いたよ美佐子・・・行かなくちゃ・・・遅刻しそうだよ。」

「そうね・・・遅刻はダメダメッ！時間厳守！！」

「行つてきます！」

「行つてらっしゃい！」

二人はそう言い合うと行つてきますの熱いKISSをかわすのだった

ふたりのKISSは熱かった

べ口を深く深く互いの口の中をむさぼるように挿入させ絡め合い、両手で互いの顔をきつく持ち合い互いのデコとデコを力の限り押し付け合い、互いの頭を幾度となく壁に叩きつけ合う・・・それが二人の愛情表現なのだ

「なんだか俺あ怖くなってよぉ、かつぱらったモン、全つ部落つことしてよぉ、一目散にそこから逃げちまったっぺよぉおぉ」

(注) 豊島 もこ道(64) 空き巢のプロフェッショナル(談)

友晴は巴投げで美佐子を投げ飛ばし、その投げ飛ばした美佐子の勢いで玄関のドアをブチ開けると転がった美佐子を飛び越えピクつく美佐子をしり目に足早に家を後にした

美佐子は即座に起き上がり腰を押さえながらよろめきながら呻きながらも友晴の後を必死で追った

アグレッシブな玄関先でのコミュニケーションに友晴は財布を落と
していったのだ

「待ってえええ〜・・待ってえええ〜・・友晴さああああ〜ん！
財布ううう〜っつ・・」

痛みをこらえながらも大声で言ってるつもりの美佐子だが足早に駅
へと向かう友晴には聞こえるよしもなかった

颯爽と足早に駅へと向かう友晴

その友晴を倒れちゃ起き倒れちゃ起きて血眼の形相で必死に追いか
ける美佐子

「俺あビツクらこいただつぺよおお〜・・あんだだ光景初めて見た
つぺよおお〜、まんるでお前え、昔嫁つ子のトメ子と見た映画のよ
お〜、あれはたすかあ・・なんだつぺかなあ〜・・！！思い出した
つぺえつ！『ゾンビ』だつぺよ！あんの光景は『ゾンビ』そのもの
だったぺやよおお〜・・俺あそれ見て背筋がゾツとして身の毛がよ
立つちまってたまらず、すかさずまあ〜たその夫婦の家さ入ってさ
つき家んな中で落つこととして来た貴金属とありったけの金目のもんし
こたまかつぱらつて来たつぺよおお〜・・」

(注) 豊島 もこ道 (64) 空き巢のプロフェッショナル (談)

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2565e/>

エキセントリック新婚生活

2010年10月10日06時31分発行